

令和6年度
学校関係者評価報告書

令和6年10月

諫早医師会立 長崎県央看護学校
学校関係者評価委員会

令和6年度 学校関係者評価委員会

1. 開催日時 令和6年10月10日(木) 13:55~15:40

2. 学校関係者評価委員

	委員氏名	所属
委員長	渡海俊明	元 長崎県立高等学校 校長
副委員長	日野出悦子	公益社団法人 長崎県看護協会 会長
委員	内村公義	鎮西学院大学 名誉教授
委員	吉田佳織	独立行政法人地域医療機能推進機構 諫早総合病院 看護部長
委員	岩永優 (欠席)	長崎県立看護学校同窓会 会長

3. 学校教職員

校長 山本 広樹
副校長 圓能寺 貞子
統括教務課長 田中 伸子
3年課程教務課長 後藤 富美子
2年課程教務課長 渡邊 令子
事務局長 今里 良二

4. 令和5年度学校自己評価に対する領域別評価及び意見

教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none">・全体的な評価は適切である。・3年課程への移行を機にして、新たな学校の在り方を再構築されているので、学校の「売り」として広報などに活かして欲しい。
学校運営	<ul style="list-style-type: none">・安全管理マニュアルの見直しをしばらく実施していなかったという課題については、今年度(6年度)に見直しを行っている。
教育活動	<ul style="list-style-type: none">・前年度課題であった職員の能力開発について、研修参加が増えている。研修内容も教育方法、ハラスメント、教育対象者の理解や3年課程開設に向けての実務研修など、研修成果も期待できる。この年度だけではなく、一人一人が意識して能力開発を継続してほしい。・職業教育に重点があるのは当然であるが、大学教育の4年間に

	<p>負けないような一般教養教育をしているところは、県央看護学校のセールスポイントになると思われる。</p>
学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・退学率が増加しているが、退学理由の分析をしっかりとされている。学業成績についても同様に分析されているので、その結果を指導に活かしてほしい。 ・学力の低下は看護の質にも影響する問題である。就職してから苦勞する人も多く、看護師に向いているかの判断を学生時代に決断することも必要かと思うが、それが難しいことも理解できる。
学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生も含めた相談体制などがあり、全体的によく支援されていることがわかる。 ・経済的な問題で看護師をあきらめることがないような支援体制のために、学校設置者として行政に働きかけるなど行動されている。 ・学生の健康管理を担う組織体制として、メンタルヘルスケアが必要な学生もいると思う。ケアの対象者ではあるが、その経験が看護師として活かせるような支援も必要かと思う。
教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎の経年劣化に伴うことや、学校生活および学習環境を考えた施設整備など大幅な改修を実施している。学生の集える場所があることは大事なことである。
学生の受け入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動は SNS など多くを駆使して計画的に行われていると思う。 ・受験者数も一定数確保されているので維持できるよう、このまま広報活動を継続してほしい。
財務	<ul style="list-style-type: none"> ・3年課程移行に伴う数年間は、運営が厳しいと予測されており、学校として行政への働きかけなど努力が続けられている。
法令遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令は遵守されていて、問題はない。
社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でのボランティア再開、学校施設の外部への貸出、職能団体活動への協力など機会が増えており、貢献している。

2. 総括

令和5年度の自己評価は項目ごとにまとめてあり、学校全体で取り組んでいることがわかり、評価は概ね適切であった。